



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月9日

東

上場会社名 ウイン・パートナーズ株式会社 上場取引所
 コード番号 3183 URL <https://www.win-partners.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 秋沢 英海
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 松本 啓二 (TEL) 03-3548-0790
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	66,276	9.7	2,228	8.0	2,258	8.5	1,528	8.4

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 1,513百万円 (-6.8%) 2025年3月期第3四半期 1,417百万円 (-18.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	54.68	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2026年3月期第3四半期	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期	48,462	23,060	47.6	830.26

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 23,060百万円 2025年3月期 24,069百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	52.00	52.00
2026年3月期(予想)	—	0.00	—	54.00	54.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正につきましては、本日(2026年2月9日)公表いたしました「配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3Q	30,503,310株	2025年3月期	30,503,310株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	2,728,374株	2025年3月期	1,913,374株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3Q	27,957,101株	2025年3月期 3Q	28,627,277株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有（任意）

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当該業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(重要な後発事象)	8
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や政府による経済政策の効果を背景に緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、継続的な物価上昇や米国の通商政策の影響による景気の下振れリスク、金融資本市場の変動等により先行きは不透明な状況が続いております。

医療業界におきましては、団塊の世代が75才以上になる2025年に向け、医療制度改革が進められてきました。更には、85歳以上の増加や人口減少が一層進む2040年を視野に入れた、新たな地域医療構想が検討されております。その中で、医師の働き方改革に伴う人手不足への対応や、医療従事者の賃上げへの取り組み等は、医療機関の経営に大きな影響を及ぼしており、経営の合理化・効率化に向けた取り組みが行われております。また、資源・資材価格やエネルギー価格の高騰等からコスト増加が継続しており、医療機関は厳しい経営環境となっております。

当社グループといたしましては、このような顧客の環境変化を的確に把握し、医療機器の販売はもとより、医療の質向上や競争力強化を総合的に支援する病院の課題解決支援や適正使用支援など、付加価値の高い提案を行うことで既存顧客の深耕と新規顧客の獲得に努めました。また、北海道エリアでの更なるシェア拡大を目的に、2026年1月1日を効力発生日として、北海道の函館エリアを中心に医療機器販売業を展開している株式会社プラスティカルをグループ化いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、主力の虚血性心疾患関連、心臓律動管理関連の販売数量が伸長した他、医療機器関連の売上が伸長したこと等により、売上高は66,276,738千円（前年同四半期比9.7%増）、経常利益は2,258,999千円（前年同四半期比8.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,528,795千円（前年同四半期比8.4%増）となり、いずれも前年同四半期を上回りました。

分類別の経営成績は以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)		当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)		増減	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	増減率(%)
虚血性心疾患関連	13,880,636	23.0	14,911,341	22.5	1,030,705	7.4
心臓律動管理関連	15,571,329	25.8	18,784,105	28.3	3,212,776	20.6
心臓血管外科関連	10,911,401	18.0	11,403,565	17.2	492,163	4.5
末梢血管疾患関連及び脳外科関連	6,440,156	10.6	6,891,979	10.4	451,823	7.0
医療機器関連	4,933,481	8.2	5,495,046	8.3	561,564	11.4
その他	8,702,486	14.4	8,790,699	13.3	88,213	1.0
合計	60,439,493	100.0	66,276,738	100.0	5,837,245	9.7

・虚血性心疾患関連

集患支援の提案を積極的に行うことで、既存顧客の深耕と新規顧客の獲得に努めました。その結果、主力商品であるPTCAバルーンカテーテルや血管内超音波（IVUS）診断カテーテルの販売数量が伸長したこと等により、虚血性心疾患関連の売上高は14,911,341千円（前年同四半期比7.4%増）となりました。

・心臓律動管理関連

不整脈の治療で使用するEPアブレーション関連商品やペースメーカーの販売数量が伸長したこと等により、心臓律動管理関連の売上高は18,784,105千円（前年同四半期比20.6%増）となりました。

・心臓血管外科関連

経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）やステントグラフト関連商品の販売数量が伸長したこと等により、心臓血管外科関連の売上高は11,403,565千円（前年同四半期比4.5%増）となりました。

・末梢血管疾患関連及び脳外科関連

経皮的シャント拡張術で使用するPTCAバルーンカテーテルや脳外科関連商品の販売数量が伸長したこと等により、末梢血管疾患関連及び脳外科関連の売上高は6,891,979千円（前年同四半期比7.0%増）となりました。

・医療機器関連

医療施設の新築・増改築及び医療機器の更新情報収集を早期に行い、地域の市場動向に沿った設備投資の提案を行ったこと等により、医療機器関連の売上高は5,495,046千円（前年同四半期比11.4%増）となりました。

・その他

循環器領域以外の診療科に対する営業活動を強化し、顧客医療機関における当社グループの取扱商品の拡大を図りました。この結果、消化器関連や糖尿病関連の販売数量が伸長したこと等により、その他の売上高は8,790,699千円（前年同四半期比1.0%増）となりました。

主な分類別の取扱商品は以下のとおりであります。

分類	取扱商品
虚血性心疾患関連	当社グループの主要商品群であり、心筋梗塞や狭心症といった虚血性心疾患の治療に使用されるカテーテル等の医療機器であります。これらの医療機器を使用した治療は、患者の身体に対する負担が少ないとから、「低侵襲医療」と呼ばれております。 ＜薬剤溶出型ステント（D E S）、P T C Aバルーンカテーテル、血管内超音波（I V U S）診断カテーテル等＞
心臓律動管理関連	不整脈の治療に使用される医療機器であります。 ＜ペースメーカー、植込型除細動器（I C D）、両室ペーシング機能付き植込型除細動器（C R T D）、電気生理検査用カテーテル、心筋焼灼術用カテーテル等＞
心臓血管外科関連	心臓疾患を治療するための外科手術の際に使用される医療機器であります。 ＜ステントグラフト、経カテーテル生体弁、人工血管、人工心肺等＞
末梢血管疾患関連及び脳外科関連	末梢血管や脳血管の疾患を治療するために使用される医療機器であります。 ＜P T Aバルーンカテーテル、末梢血管用ステント、塞栓用コイル等＞
医療機器関連	放射線科や手術室等で使用される医療機器であります。 ＜X線血管撮影装置、コンピュータ断層撮影装置（C T）、磁気共鳴画像診断装置（M R I）、麻酔器等＞
その他	上記以外の医療機器等であります。 ＜インスリンポンプ、持続血糖測定器、血圧トランステューサーセット、血圧モニター用チューブ等＞

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産は、前連結会計年度末に比べ1,841,775千円増加し、48,462,148千円となりました。これは、その他（流動資産）が1,509,150千円、受取手形及び売掛金が748,505千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ2,850,489千円増加し、25,401,600千円となりました。これは、支払手形及び買掛金が1,930,923千円、その他（固定負債）が862,902千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,008,714千円減少し、23,060,548千円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益により1,528,795千円増加した一方、前期の配当金の支払により1,486,676千円、自己株式取得により1,036,000千円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2025年5月15日の「2025年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	16,209,529	14,890,152
受取手形及び売掛金	16,256,154	17,004,660
電子記録債権	2,541,690	3,020,953
商品	3,246,650	3,702,329
その他	1,471,429	2,980,579
流动資産合計	39,725,454	41,598,675
固定資産		
有形固定資産	4,473,892	4,384,403
無形固定資産	401,391	415,636
投資その他の資産	2,019,634	2,063,432
固定資産合計	6,894,918	6,863,472
資産合計	46,620,372	48,462,148
負債の部		
流动負債		
支払手形及び買掛金	17,211,941	19,142,865
電子記録債務	2,705,929	2,895,264
未払法人税等	501,558	346,536
賞与引当金	440,108	183,362
その他	527,075	769,809
流动負債合計	21,386,614	23,337,839
固定負債		
退職給付に係る負債	1,145,615	1,181,978
その他	18,879	881,781
固定負債合計	1,164,495	2,063,760
負債合計	22,551,110	25,401,600
純資産の部		
株主資本		
資本金	550,000	550,000
資本剰余金	2,594,393	2,594,393
利益剰余金	21,746,537	21,788,655
自己株式	△1,050,787	△2,086,787
株主資本合計	23,840,143	22,846,261
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50,953	48,897
退職給付に係る調整累計額	178,166	165,389
その他の包括利益累計額合計	229,119	214,286
純資産合計	24,069,262	23,060,548
負債純資産合計	46,620,372	48,462,148

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	60,439,493	66,276,738
売上原価	53,176,968	58,460,209
売上総利益	7,262,525	7,816,529
販売費及び一般管理費	5,199,114	5,587,824
営業利益	2,063,410	2,228,704
営業外収益		
受取利息	8,201	38,840
受取配当金	6,761	1,240
不動産賃貸料	40	-
その他	4,013	4,361
営業外収益合計	19,017	44,442
営業外費用		
譲渡制限付株式関連費用	-	12,381
その他	1,271	1,766
営業外費用合計	1,271	14,147
経常利益	2,081,156	2,258,999
特別利益		
固定資産売却益	4,097	9,916
特別利益合計	4,097	9,916
特別損失		
固定資産売却損	221	-
事務所移転費用	-	11,366
特別損失合計	221	11,366
税金等調整前四半期純利益	2,085,032	2,257,549
法人税等	674,054	728,754
四半期純利益	1,410,977	1,528,795
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,410,977	1,528,795

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,410,977	1,528,795
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,103	△2,056
退職給付に係る調整額	△2,613	△12,777
その他の包括利益合計	6,489	△14,833
四半期包括利益	1,417,467	1,513,962
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,417,467	1,513,962

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

取得による企業結合

当社は、2025年12月26日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社ワイン・インターナショナルを通じ、株式会社プラステンメディカルの全株式を取得することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。なお、効力発生日は、2026年1月1日であります。

企業結合の概要

1. 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社プラステンメディカル

事業の内容：医療機器の販売、賃貸、修理及び保守

2. 企業結合を行う主な理由

当社グループは、「すべての人にベター・クオリティ・オブ・ライフを提供し、豊かな社会の実現に貢献します。」という企業理念の下、M&Aによる業容拡大を経営目標の一つに掲げております。株式会社プラステンメディカルは、北海道の函館エリアを中心に医療機器販売業を展開しており、北海道エリアで事業展開する連結子会社の株式会社ワイン・インターナショナルと地理的補完関係にあります。本件株式取得により、北海道エリアの更なる顧客基盤強化及び事業規模拡大を図ってまいります。

3. 企業結合日

2026年1月1日（効力発生日）

4. 企業結合の法的形式

現金を対価とした株式の取得

5. 結合後企業の名称

変更ありません。

6. 取得した議決権比率

100%

7. 取得企業を決定するに至った主な根拠

株式会社ワイン・インターナショナルが現金を対価として株式を取得することによるものであります。

(セグメント情報等の注記)

当社グループは、医療機器販売事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	162,249千円	205,742千円
のれんの償却額	26,937	26,937

(重要な後発事象)

自己株式の取得

当社は、2026年2月9日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

資本効率および株主還元のさらなる向上を図るため。

2. 取得に係る事項の内容

- (1) 取得対象株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 取得し得る株式の総数 : 29万株（上限）
（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 1.0%）
- (3) 株式の取得価額の総額 : 4億円（上限）
- (4) 取得期間 : 2026年2月10日～2026年3月31日
- (5) 取得方法 : 東京証券取引所における市場買付け

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月9日

ワイン・パートナーズ株式会社

取締役会 御中

有限責任 あづさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 今井仁子
--------------------	------------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 松本享也
--------------------	------------

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているワイン・パートナーズ株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、

職業的専門家としての判断を行い、職業的懷疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいていているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(四半期決算短信開示会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。